（参考）こども計画　重点事業 進行管理シート

資料３－４

事業の基本情報	
事業名	担当課
「こども計画こども版リーフレット」の配布（学校教育内での授業【こども対象】）	こども政策課

基本目標	施策	主な取組
1.こどもの権利が尊重されるまち	(1)こどもの権利の理解促進	こどもの権利について学び、考える機会の創出

R7 年度取組の成果と課題（担当課入力）		
事業内容	定性的評価（Valueへの寄与と課題）	副次的効果
こどもの権利についてこども向けに分かりやすく記載した「こども計画こども版リーフレット」を市内公立小中学校に通うすべての児童・生徒に配布した。 リーフレットの主な構成は以下のとおり。 ・こどもの権利として、意見を表す権利があること ・こどもの意見を聴く取組として「こども委員会」が始まること ・市内には、家や学校以外に過ごせる「こどもの居場所」があること ・こどもの権利条約には、こどもの権利として様々な権利が書かれていること ・悩みを相談できる具体的な相談先紹介 ・こども計画策定時に実施したこども版パブリックコメントで出た意見の反映について	□　Value①大人の意識変容 【成果：大人の意識変容にどう寄与したか】 【課題：大人の意識変容達成に向けて残された課題】	
	□　Value②地域で育つ 【成果：地域で育つにどう寄与したか】 【課題：地域で育つ達成に向けて残された課題】	
	■　Value③こどもの自己決定 【成果：こどもの自己決定にどう寄与したか】 リーフレットの配布を通じて、自分たちには権利があることを知ってもらうことができた。また、こども版パブリックコメントで出たこどもの意見がこども計画に反映されたことをフィードバックしたことで、「市に自分たちの声が届く」ことを感じる機会でもあるため、自己決定にも寄与できたと考える。 【課題：こどもの自己決定達成に向けて残された課題】 こどもたちが実際にリーフレットの中身を読んだのか、また、読んで内容を理解できたのか把握できていない。	

R8 年度の取組方針（担当課入力）		
R8 年度方向性	R8 年度方向性の理由	R8 年度の取組内容について具体的に記載してください。
継続	市内の児童・生徒にアプローチする手段として有効であると考えるため、紙面構成を見直した上で継続して配布する。	・リーフレットに、タブレット端末からアクセスできるアンケートの二次元コードを添付することで、内容が理解できたかどうかや、分かりづらかった点等を把握し、次年度に反映する ・各クラス担任から児童・生徒にリーフレットを配布してもらう際、こどもの権利についてとても大事なことが書かれているので中身を読んでもらいたい旨丁寧に説明してもらうよう、教育委員会を通じて依頼する

（参考）こども計画　重点事業 進行管理シート

資料３－４

事業の基本情報	
事業名	**担当課**
親子関係を見直すヒントを学ぶセミナー（こどもの権利について学び、対話する事業【大人対象】①）	こども政策課

基本目標	施策	主な取組
1.こどもの権利が尊重されるまち	(1)こどもの権利の理解促進	こどもの権利について学び、考える機会の創出
5.地域でこども･若者・子育て家庭を応援するまち	(17)地域でこどもを大切にする文化の醸成	こどもを大切にする地域づくり

R7 年度取組の成果と課題（担当課入力）

事業内容	定性的評価（Valueへの寄与と課題）	副次的効果
大人の考えや価値観を一方的に押しつけるのではなく、こどもの声に耳を傾け、尊重し合える関係を育むことを目的として、「親子関係を見直すヒントを学ぶ連続セミナー」を開催した。 実施日　令和7年11月15日(土)、29日(土)各回10～12時 対象　小学1年生～18歳のこどもの保護者 講師　NPO法人PIECES 参加者　17人（延べ） 受講後アンケートでは、全員が「こどもが権利の主体であること」「こどもと自分の権利を相互に尊重することの大切さ」の理解が深まったと回答。	■ Value①大人の意識変容 【成果：大人の意識変容にどう寄与したか】 保護者同士のペアでの対話を通して、相互に価値観を尊重し合うことで、保護者自身もわが子という他者と価値観を尊重し合う親子関係を築くきっかけとなった。 また、「（こどもとのやり取りの後ろにある）自分の価値観を見つめ直す重要性を感じた」「自分の価値観を客観的に見つめることができた」という声も聞かれ、大人の意識変容につながった。 【課題：大人の意識変容達成に向けて残された課題】 様々な広報・周知活動を行ったが、定員（20名）に至らなかった。本事業はこどもの権利について課題として意識化されていない対象にも受講してほしいものでもあるため、一層の工夫が必要。	講座後に数名の受講生が談笑する様子が見られ、同じ悩みを抱える保護者同士をつなぐ機会となった。
	□ Value②地域で育つ 【成果：地域で育つにどう寄与したか】 【課題：地域で育つ達成に向けて残された課題】	
	□ Value③こどもの自己決定 【成果：こどもの自己決定にどう寄与したか】 【課題：こどもの自己決定達成に向けて残された課題】	

R8 年度の取組方針（担当課入力）

R8 年度方向性	R8 年度方向性の理由	R8 年度の取組内容について具体的に記載してください。
継続	参加者数は少なかったものの、受講後アンケートの満足度が高く、こどもの権利の理解促進に寄与する講座であるため、開催方法を検討の上、継続する。	参加者数の増加を目指すとともに、こどもの権利を課題として意識していない層にも参加してもらうことを狙い、PTA協議会と連携した保護者向け講座を開催する。

（参考）こども計画　重点事業 進行管理シート

資料３－４

事業の基本情報	
事業名	**担当課**
管理職研修（こどもの権利について学び、対話する事業【大人対象】②）	こども政策課

基本目標	施策	主な取組
1.こどもの権利が尊重されるまち	(1)こどもの権利の理解促進	こどもの権利について学び、考える機会の創出

R7 年度取組の成果と課題（担当課入力）

事業内容	定性的評価（Valueへの寄与と課題）	副次的効果
地域全体でこどもを大切にする文化を育み、こどものウェルビーイングの向上を図るため、全庁一体となった取組を一層推進することを目的に、こども家庭庁職員を講師とした管理職研修を以下のとおり開催した。 ●研修の実施概要 実施日：令和8年2月19日（木）10時～11時30分 対象：管理職（参加者数４５名） 講師：加藤朱明子 氏（こども家庭庁長官官房参事官） 目的：こども・若者の意見を聴き、政策に反映する意義や理由について理解を深める ●プログラム概要 ・こども・若者の意見を聴く背景（こども基本法施行、こども家庭庁発足、こどもの権利の考え方など） ・こども・若者の意見を聴く意義 ・こども・若者の意見を聴き その意見を政策に反映するとはどういうことか ・他自治体の取組事例紹介 ・こども政策課のサポートメニュー紹介 ・質疑応答	■ Value①大人の意識変容 【成果：大人の意識変容にどう寄与したか】 受講者アンケートでは回答者35名全員が、こどもの意見を聴き、市政に反映する必要があると回答した（ある程度必要だと感じた31.8%、必要だと感じた68.6%）ことから、こどもの声を聴く意義について理解が進んだ。また、所属部署でこどもの意見を聴きたいテーマを聞いたところ、具体的に18ものテーマの回答があり、日常業務においてこどもの意見を聴くイメージを具体的に持ってもらうことにつながった。 【課題：大人の意識変容達成に向けて残された課題】 一方で、「こどもの意見聴取・反映を実施するにあたっての課題」として、「職員のファシリテーション技術」や「課題の掘り下げや施策への反映」など、意見を聴く大人のスキルに関すること、「こどもたちに、こちらが聞きたいことの趣旨を理解してもらうための準備や、こどもたちが発した言葉・表現の奥にある思いや考えを聞き出すのに非常に時間を要する事」など業務負担に関すること、「おとなと同席する必要がある場合の時間や場の雰囲気の設定」など意見聴取時間等の配慮に関すること等があがった。実際に担当業務内で取り組む際に色々なハードルを感じている職員が多数いることが分かった。 □ Value②地域で育つ 【成果：地域で育つにどう寄与したか】 【課題：地域で育つ達成に向けて残された課題】 □ Value③こどもの自己決定 【成果：こどもの自己決定にどう寄与したか】 【課題：こどもの自己決定達成に向けて残された課題】	特に福祉部局に長く携わる職員には、「こどもの権利」は「こどもを守ること」という認識が強く、「意見聴取・反映」が、こどもの権利にどう繋がるかイメージしづらい可能性があることが分かった。 それを受け、こどもの権利は大きく「付与・保護を受ける権利」と「参加する権利」の2種類存在することを分かりやすく大人に伝えるための新たな資料作成につながった。

R8 年度の取組方針（担当課入力）

R8 年度方向性	R8 年度方向性の理由	R8 年度の取組内容について具体的に記載してください。
見直し	管理職の意識変容は一定進んだ手応えがあるため、今年度は実務に携わる中堅職員を対象に、講座内容も見直した上で研修を実施したいと考える。	・各課がこども・若者の意見を聴く際の参考になる資料として、これまでこども政策課が実施してきた「こども委員会」運営での気づきや実践にあたっての工夫点をまとめた資料を作成する予定。 ・こどもの意見表明を支えるファシリテーションについて必要な知識と実践的な学びを得ることができる「こども意見ファシリテーター養成講座（主催：こども家庭庁）」オンライン開催の案内を庁内インフォメーションに掲示することで、職員に情報提供を行う。

（参考）こども計画　重点事業 進行管理シート

資料３－４

事業の基本情報	
事業名	担当課
スクールメイキングプロジェクトの実施（旧：こども議会の開催）	こども政策課

基本目標	施策	主な取組
1.こどもの権利が尊重されるまち	(2)こどもの意見表明、意見反映の機会創出	こどもの意見表明機会の創出

R7 年度取組の成果と課題（担当課入力）

事業内容	定性的評価（Valueへの寄与と課題）	副次的効果
校則や学校生活に関するルールや取組などを、こども自身が先生や大人と対話しながら見直し提案することで、こども達が身近な社会を自らの力で変えられる実感を得ることを目的に、以下の通り実施。 ①生駒市立生駒南中学校 全学年縦割りでの対話等（150名程度）により、生徒が取り組みたいテーマ（校則・学校環境・行事など）を決定。担当教員1名・生徒会と有志生徒計12名がコアメンバーとなり取りまとめた結果、翌年度の実施を見据え、生徒が縦割り活動を企画することとなった。当該企画を教職員会議の場で提案し承認された。 ②奈良県立奈良北高校 いじめをつくりださないためのスクールコミニュケーション」をテーマに、全校アンケートを実施。その結果を踏まえ、スクールコミュニケーションにかかる学年別のスローガンを策定（コアメンバー：教員4名・生徒6名）、教職員会議での承認を経て、全校集会（1,000名程度）で発表。 ③中学校教員向け研修 生徒主体の学校づくりに必要なマインドと心構えを知る、生徒の声を学校運営にどう取り入れるかを考えることを目的に研修を実施。市内8校中7校、計11名が参加。 ④中学校生徒会生徒向け研修 生徒が「やりたいこと」を整理し行動計画に落とし込む、“できること／時間がかかること”を整理して計画的に挑戦できるようにすることを目的に研修を実施。市内8校すべての生徒会が参加。	■ Value①大人の意識変容 【成果：大人の意識変容にどう寄与したか】 当初は取組に後ろ向きだった先生が生徒の思わぬ成長に感化される様子が見られた他、「教師では思いつかない発想や新しい視点が生徒から多く出ている」「（学校づくりの）本来のあるべきスタイル」「先生自身も道が見えないなか、生徒のみんなと一緒に悩んだり、すぐそばで応援できたことが良かった」等の声が聴かれ、大人が与えた条件のなかでこどもが考えるのではなく、こどもとともにつくっていくという取組の第一歩を踏み出すことができた。 【課題：大人の意識変容達成に向けて残された課題】 中心的に本取組に関わっている先生以外の先生をいかに巻き込み、学校全体の文化として浸透させていくかが課題。 □ Value②地域で育つ 【成果：地域で育つにどう寄与したか】 【課題：地域で育つ達成に向けて残された課題】 ■ Value③こどもの自己決定 【成果：こどもの自己決定にどう寄与したか】 本取組に参加した生徒からは、「意見をまとめるのが難しかった」「一度決めたことでも次の代の生徒が見直していけると良い」と意思決定の難しさを感じつつも、生徒自身が学校づくりに関与していく重要性や充実を感じてもらうことができた。 【課題：こどもの自己決定達成に向けて残された課題】 中心的に関わった生徒だけでなく、こどもの自己決定を他の生徒に波及させていく工夫が必要である。	○学校と担当課との関係性ができ、こどもの学校での様子を見ること、学校や先生としての考え方に触れること等を通して、施策の検討・改善につながった。 ○本取組にかかる研修を教育委員会事務局（学校支援課）と共同で行うことになり、連携することができた。

R8 年度の取組方針（担当課入力）

R8 年度方向性	R8 年度方向性の理由	R8 年度の取組内容について具体的に記載してください。
拡充	新規事業で企画から始めたため、R7年度はおおむね半年間の実施であったところ、R8年度は開始時期を早め、活動時期を長くとることができる。	①生駒南中学校で本取組を継続し、学校全体でこどもの自己決定を支援していくための体制づくり、意思決定のプロセスの見直しを行う。 ②新しく他の中学校での実施を目指す。 ③昨年度に引き続き、教育委員会事務局と共同での研修実施を目指す。 ④生駒高校で生徒向け研修を実施する。

（参考）こども計画　重点事業 進行管理シート

資料３－４

事業の基本情報	
事業名	担当課
こども意見ファシリテーター養成講座（奈良県と連携したこども･若者が意見を表明する機会の確保の推進）	こども政策課

基本目標	施策	主な取組
1.こどもの権利が尊重されるまち	(2)こどもの意見表明、意見反映の機会創出	こどもの意見表明機会の創出

R7 年度取組の成果と課題（担当課入力）		
事業内容	定性的評価（Valueへの寄与と課題）	副次的効果
①こども意見ファシリテーター養成講座における連携 複数のこども・若者と対話するグループファシリテーションができる人材の養成を目的とした、こども家庭庁主催「こども意見ファシリテーター養成講座」を11月7日に開催し、参加者募集にあたって奈良県の協力を得た。 当日参加者24名のうち奈良県こども・女性課職員も2名参加した。 ②第2回こども委員会における連携 こども家庭庁からのファシリテーター派遣によって開催した第2回こども委員会では、県下自治体からの視察を県を通じて案内した。 当日は安堵町から1名の視察があった。	■ Value①大人の意識変容 【成果：大人の意識変容にどう寄与したか】 ①こども意見ファシリテーター養成講座には、本市の学童指導員、民生・児童委員、家庭教育支援チームたけのこメンバー等市内でこどもと関わる仕事や活動をされている方も複数参加した。（生駒市に関わる参加者は市職員を含めて合計13名） 講座は、こどもとのコミュニケーションのポイントや話し合いの進め方等についてグループワークをしながら学ぶ内容であったことから、日常の活動での実践が期待できる。 【課題：大人の意識変容達成に向けて残された課題】 ①講座は充実した学びの多い内容であったが、9時～17時と開催時間が非常に長かったこともあり、参加者が少なく、大人への広がりは限定的であった。	①こども意見ファシリテーター養成講座について、市内の多様な主体に参加を呼び掛けたところ、学童指導員から最も多い参加があった。市内の学童指導員の方には、該当テーマに関心の高い方が複数いることを知る機会となった。
	□ Value②地域で育つ 【成果：地域で育つにどう寄与したか】 【課題：地域で育つ達成に向けて残された課題】	
	□ Value③こどもの自己決定 【成果：こどもの自己決定にどう寄与したか】 【課題：こどもの自己決定達成に向けて残された課題】	

R8 年度の取組方針（担当課入力）		
R8 年度方向性	R8 年度方向性の理由	R8 年度の取組内容について具体的に記載してください。
見直し	R7年度の県との連携は、本市が、こども家庭庁のR7年度「こども・若者の意見反映にかかるサポート事業」に採択されたことを受けて実現したものであるため。	・学童指導員約80名を対象に市が開催している研修のテーマとして「こどもの権利及びこどもの意見聴取」を取り上げて開催予定。 ・県との連携としては、県が主催する、「奈良県が選ばれる地域になるには？」をテーマにこども・若者の意見を聴いて企業のリソースと組み合わせるワークショップ「こども・若者 共創プロジェクト」を7月末に開催予定。生駒市は当日協力職員としてチームに加わり一緒に考えることに加え、地域の課題やリソースを共有する役割を担う予定。

（参考）こども計画　重点事業 進行管理シート

資料３－４

事業の基本情報	
事業名	担当課
こども委員会の設置・開催	こども政策課

基本目標	施策	主な取組
1.こどもの権利が尊重されるまち	(2)こどもの意見表明、意見反映の機会創出	市政全般についてこどもの意見を反映させることができる仕組みの構築・運営

R7 年度取組の成果と課題（担当課入力）

事業内容	定性的評価（Valueへの寄与と課題）	副次的効果
●事業概要 市政にこどもの意見を反映する仕組みとして「生駒市こども委員会」を設置し、こどもに意見を聴きたい案件がある担当課と連携し、以下のとおり2つのテーマで開催した。 ●各回の内容と結果 テーマ①「公園・自然の中での外遊び」 参加こども委員：20名（小学校高学年14名、中学生6名） 参加職員：子育て健康部1名、こども政策課5名、みどり公園課3名 内容：グループヒアリング（外遊びについて困っていること・やりたい外遊び等）、理想の遊び場を考えるグループワーク 意見の反映先：「生駒市緑の基本計画」の改定に反映 アンケート結果：こども委員会で言いたいことが言えた参加者の割合100%（言えた65%、まあ言えた35%） テーマ②「ごみを減らす」 参加こども委員：23名（小学校高学年20名、中学生3名） 参加職員：子育て健康部1名、こども政策課5名、環境保全課4名 内容：グループヒアリング（ごみ収集日程表の改善点・ごみを減らすためにできること等）、あったら嬉しいごみ減量の取組を考えるワーク 意見の反映先：出前講座で配布する小学生向けごみ分別表と、教室掲示用ポスターを新たに作成 アンケート結果：こども委員会で言いたいことが言えた参加者の割合100%（言えた78%、まあ言えた22%） ●取組の展開 こども委員会各回の様子や意見の反映結果は市ホームページにまとめ、公立小中学校に通うこどもに毎年配布する「生駒市こども計画リーフレット（こども版）」で紹介する他、テーマ②「ごみを減らす」では、こどもの意見を受けて作成したごみ分別表等を小学校４年生を対象に毎年実施される出前講座で配布することとなった。 これらにより、参加者以外のこどもも、「自分たちの声が届く」ことに気付くきっかけをつくることができた。	■ Value①大人の意識変容 【成果：大人の意識変容にどう寄与したか】 連携課にとって、計画改定のタイミングでこどもから対面で意見を聴くという最初の一歩を踏み出した。担当者からは「こどもたちが想像以上に真剣に考えたり、取組をしていることに驚いた」との感想があり、職員が、こどもの持つ力を知る重要な機会となった。 【課題：大人の意識変容達成に向けて残された課題】 大人と同じようにこどもの意見を取り扱い、施策等に反映することについて、職員の一層の意識変容が求められており、研修等で取り組む必要がある。 □ Value②地域で育つ 【成果：地域で育つにどう寄与したか】 【課題：地域で育つ達成に向けて残された課題】 ■ Value③こどもの自己決定 【成果：こどもの自己決定にどう寄与したか】 安心して発言できる環境設定を心掛けた結果、参加者全員が、言いたいことが言えたかどうかの質問に肯定的な回答だった。ありのままの思いを行政に伝えフィードバックされる経験は、自己有用感を育むことに寄与していると考える。 【課題：こどもの自己決定達成に向けて残された課題】 一つのテーマにつき1回のみの開催であり、フィードバックは郵送でしかできなかったことから、参加者がフィードバックを受けて実際にどのように感じているのかまでは把握できていない。	・連携課とディスカッションする時間が増えたことで、別事業でも連携できそうな案件を把握することができた ・第1回目の開催時、複数のメディア取材が入り、各種媒体で発信されたことで、生駒市がこどもの意見聴取・反映に力を入れて取り組むことを庁内外に知ってもらうことができた ・第2回目の開催にあたって、国の「こども・若者意見反映サポート事業」に採択されたことで、こども家庭庁とのつながりができ、当初想定していなかった管理職研修を開催する運びとなった

R8 年度の取組方針（担当課入力）

R8 年度方向性	R8 年度方向性の理由	R8 年度の取組内容について具体的に記載してください。
拡充	より丁寧に職員と参加者とが対話できるよう、一つのテーマにつき複数回の開催に変更して実施するため。	・上半期は拠点形成室と連携し、「いこみなエリアにあったらいいなをつくってみよう！」をテーマに、全4回開催する。 ・下半期は企画政策課と連携し、第6次総合計画第3期基本計画の策定におけるこどもからの意見聴取・反映という位置づけで全2回開催予定。 ・より良い問いの立て方についてのアドバイスを得ること、職員がテーブルファシリテーターに専念できることを目的に、外部アドバイザーに包括的なアドバイス業務と当日の全体のファシリテーターを依頼する。 ・フィードバック資料に、読んでどう感じたかのアンケートフォームの二次元コードを添付、回答してもらうことで、こどもたちの実感を把握する。

（参考）こども計画　重点事業 進行管理シート

資料３－４

事業の基本情報	
事業名	担当課
ヤングケアラーに関する調査	こども家庭センター

基本目標	施策	主な取組
1.こどもの権利が尊重されるまち	(3)こどもの権利保障	ヤングケアラー支援体制の強化

R7 年度取組の成果と課題（担当課入力）

事業内容	定性的評価（Valueへの寄与と課題）	副次的効果
当初、市で実施する予定であったが、奈良県の実施となった。 ●奈良県調査について ・対象：県内の学校（県内公立小学校５年、６年、中学校全学年、義務教育学校５年生以上、高等学校全学年、特別支援学校小学５年以上、中学部、高等部） ・時期：６月中旬～７月中旬 ・ヤングケアラーの基準：①家事や家族のお世話を３日/週以上②平日に家族のための家事や家族のお世話を３時間以上③現状や気持ちを誰かに相談したい・している　と回答した者 ●結果 ・①②③いずれかを選択したすべての対象者に各学校が聞き取りを行った結果、ヤングケアラーとして家庭に介入が必要と判断され、要保護児童対策地域協議会に報告があったこどもはなかった。	■ Value①大人の意識変容 【成果：大人の意識変容にどう寄与したか】 各学校の教師にヤングケアラーについて知ることで、こどもの権利を守り、こどもを中心に考えるという視点を持っていただけた。 【課題：大人の意識変容達成に向けて残された課題】 □ Value②地域で育つ 【成果：地域で育つにどう寄与したか】 【課題：地域で育つ達成に向けて残された課題】 □ Value③こどもの自己決定 【成果：こどもの自己決定にどう寄与したか】 【課題：こどもの自己決定達成に向けて残された課題】	今回の調査結果を受けて、ヤングケアラーの認知度は、小学生14.8%、中学生29.9%で低い。（高校生50.5%）さらに周知が必要と考えられる。

R8 年度の取組方針（担当課入力）

R8 年度方向性	R8 年度方向性の理由	R8 年度の取組内容について具体的に記載してください。
継続	今年度は奈良県では昨年度のフォローアップを行う予定だが、本市では、小中学生のヤングケアラー認知度を上げるためと国から年1回以上の定期的な実施が望まれていることもあり、市独自で実態把握調査を継続する必要があるため	小中学生のヤングケアラー認知度を上げるためと国から年1回以上の定期的な実施が望まれているため、市独自で実態把握調査を実施する。その調査で、ヤングケアラーが把握されれば優先的に支援を入れていく。

（参考）こども計画　重点事業 進行管理シート

資料３－４

事業の基本情報	
事業名	担当課
ヤングケアラー･コーディネーターの配置	こども家庭センター

基本目標	施策	主な取組
1.こどもの権利が尊重されるまち	(3)こどもの権利保障	ヤングケアラー支援体制の強化

R7 年度取組の成果と課題（担当課入力）		
事業内容	定性的評価（Valueへの寄与と課題）	副次的効果
ヤングケアラー・コーディネーターの採用活動を行い令和8年度から配置することに決まり、迅速に対応するための体制整備につながった。 採用活動として、4月から広報紙、市ホームページに募集について掲載、ハローワーク、社会福祉士協会などにも求人を出したが応募があまりなく、応募があってもなかなか決定に至らない状況であった。	□　Value①大人の意識変容 【成果：大人の意識変容にどう寄与したか】 【課題：大人の意識変容達成に向けて残された課題】	
	□　Value②地域で育つ 【成果：地域で育つにどう寄与したか】 【課題：地域で育つ達成に向けて残された課題】	
	□　Value③こどもの自己決定 【成果：こどもの自己決定にどう寄与したか】 【課題：こどもの自己決定達成に向けて残された課題】	

R8 年度の取組方針（担当課入力）		
R8 年度方向性	R8 年度方向性の理由	R8 年度の取組内容について具体的に記載してください。
継続	ヤングケアラーコーディネーターが、ヤングケアラー実態調査、対象の把握、支援の実施、啓発活動を行っていくため	ヤングケアラー実態調査を市教育委員会とともに市内小中学校の生徒･児童に実施し､その結果の把握や特に緊急度の高いこどもに対して優先的な支援を実施する。また実態調査でヤングケアラーとはどういう状況なのかを説明する文章も併せて提供し、こどもたちにヤングケアラーについて知ってもらう。

（参考）こども計画　重点事業 進行管理シート

資料３－４

事業の基本情報	
事業名	担当課
複合型コミュニティ（まちのえき）づくりの推進	地域コミュニティ推進課

基本目標	施策	主な取組
2.こどもが健やかに育つまち	(5)こどもの居場所づくり	地域住民によるこどもの居場所づくりへの支援
5.地域でこども･若者・子育て家庭を応援するまち	(14)地域の力の活用	地域でこども・子育てを支える体制の強化

R7 年度取組の成果と課題（担当課入力）

事業内容	定性的評価（Valueへの寄与と課題）	副次的効果
●事業概要 集会所や公園など、住民が歩いて行ける身近な地域拠点において、新たに場づくり活動に取り組む自治会等に対し、補助金による支援をはじめ、行政が提供可能な各種支援サービスや、民間事業者等とのマッチングを通じて、活動の立ち上げから継続的な運営までを一体的に支援する。 ●対象 要綱の趣旨に賛同し自主的に取り組む市内に拠点のある市民活動団体(当面の間は自治会) ●数値実績 22自治会18拠点	□ Value①大人の意識変容 【成果：大人の意識変容にどう寄与したか】 【課題：大人の意識変容達成に向けて残された課題】	大人達も相互に顔の見える関係を築き、普段得られ難い経験を積むことができた。
	■ Value②地域で育つ 【成果：地域で育つにどう寄与したか】 地域の大人が持つ特技などをこども達に伝授することで、こども達の新たな知見に繋がった。 【課題：地域で育つ達成に向けて残された課題】 地域間での人財の違いにより、必ずしもこども達にとっての知見を得る機会の均等にはなっていない。	
	□ Value③こどもの自己決定 【成果：こどもの自己決定にどう寄与したか】 【課題：こどもの自己決定達成に向けて残された課題】	

R8 年度の取組方針（担当課入力）

R8 年度方向性	R8 年度方向性の理由	R8 年度の取組内容について具体的に記載してください。
継続	引き続き、まちのえき事業を継続し、こども達が様々な知見を得られるようにする必要があるため。	新たに3か所のまちのえきの開設を目指し、本事業に興味を持っている自治会に事業の詳細を説明している。

（参考）こども計画　重点事業 進行管理シート

資料３－４

事業の基本情報	
事業名	担当課
こども食堂づくり実践講座（こどもの居場所づくり事業）	こども政策課

基本目標	施策	主な取組
2.こどもが健やかに育つまち	(5)こどもの居場所づくり	地域住民によるこどもの居場所づくりへの支援
2.こどもが健やかに育つまち	(6)こどもの心のケア	地域のこどもの施設・居場所等との連携体制の整備
4.安心して子育てができるまち	(13)配慮が必要な家庭への支援	親子の孤立化防止
5.地域でこども･若者・子育て家庭を応援するまち	(14)地域の力の活用	地域住民によるこどもの居場所づくりへの支援
5.地域でこども･若者・子育て家庭を応援するまち	(15)安全・安心な環境の整備	地域のこどもの施設・居場所等との連携体制の整備
5.地域でこども･若者・子育て家庭を応援するまち	(17)地域でこどもを大切にする文化の醸成	こどもを大切にする地域づくり

R7 年度取組の成果と課題（担当課入力）

事業内容	定性的評価（Valueへの寄与と課題）	副次的効果
こども食堂の開設・運営につなげる実践的な連続講座「こども食堂づくり実践講座」を全5回開催した。 単なる座学にとどまらず、参加者同士でこども食堂を立ち上げることを目指す実践的な講座であり、こども食堂をトライアル実施することも講座内容に含まれている。 講座終了後もこども食堂の立ち上げに向けて伴走支援するフォローアップを5回行った。 定員12名のところ、申込者が44名であったため、定員を15名に拡大し、第1回のみ公開講座としたところ27名の参加があった。 講座修了者15名のうち、11名が講座終了後も活動を継続し、市内でこども食堂を新たに2か所（北コミュニティセンター、西松ヶ丘）開設するに至った。	■ Value①大人の意識変容 【成果：大人の意識変容にどう寄与したか】 講座内でこどもが置かれている現状を受講者に共有し、家や学校とは違う第3の場所で、こどもが安心して自由に過ごせ、多様な人と出会える場が求められていることを伝えた。 【課題：大人の意識変容達成に向けて残された課題】 ■ Value②地域で育つ 【成果：地域で育つにどう寄与したか】 こども食堂が2ヵ所立ち上がり、主に未就学児や小学生世代のこどもの居場所の拡充につながった。 【課題：地域で育つ達成に向けて残された課題】 ・こどもが自分の足でアクセスできる場所すべてにこどもの居場所が充足しているわけではない。 ・中高生世代は地域とつながりづらいケースが一定程度生じうるが、常設的なユース拠点はないのが現状である。 □ Value③こどもの自己決定 【成果：こどもの自己決定にどう寄与したか】 【課題：こどもの自己決定達成に向けて残された課題】	・定員15名のところ44名の応募があり、地域の担い手の発掘に寄与した。 ・希望するこどもに、こども食堂のトライアル実施の際にスタッフとして参加してもらうことで、こどもが地域に参画する機会となった。 ・参加者募集時に、各地域の自治会長に地域に開かれたこどもの居場所としてのこども食堂の有用性を伝える機会があった他、メディアにも取り上げられたことで、市内におけるこども食堂の認知が広がった。

R8 年度の取組方針（担当課入力）

R8 年度方向性	R8 年度方向性の理由	R8 年度の取組内容について具体的に記載してください。
拡充	こどもの居場所の拡充や地域の担い手発掘などに貢献する事業であるため、引き続き講座を開催する。また、こども食堂ネットワークの構築を目指し、こども食堂運営者が交流する機会を創出する。 加えて、ユースの居場所づくりを試行する。	・地域資源を活用して、令和7年度とは異なる小学校区にこども食堂を開設できるように、本講座を通して伴走支援する。 ・令和8年度にユースの居場所づくり事業を実施し、校内居場所カフェや出張ユースカフェを開催することで、中高生世代の居場所の拡充を目指す。

（参考）こども計画　重点事業 進行管理シート

資料３－４

事業の基本情報	
事業名	担当課
放課後子ども教室等の空き教室の活用	学校支援課

基本目標	施策	主な取組
2.こどもが健やかに育つまち	(5)こどもの居場所づくり	地域住民によるこどもの居場所づくりへの支援

R7 年度取組の成果と課題（担当課入力）

事業内容	定性的評価（Valueへの寄与と課題）	副次的効果
放課後に小学校の多目的室や図書室を利用し、子どもたちが放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動ができるよう、地域住民等の参画を得て、放課後等に全ての児童を対象として、学習や体験・交流活動などを行う。 市内放課後子ども教室開催回数　170回 市内登録児童数　385人 参加人数　延べ5,727人 放課後子ども教室交流会を令和7年６月及び令和８年２月に実施。 事業内容の交流及び会計処理に向けた手続きについて説明。	□ Value①大人の意識変容 【成果：大人の意識変容にどう寄与したか】 【課題：大人の意識変容達成に向けて残された課題】	地域の高齢者の生きがい、活力となっている。
	■ Value②地域で育つ 【成果：地域で育つにどう寄与したか】 地域住民により構成された放課後子ども教室にて、各地域によって特色のある取組に参加することができた。 放課後子ども教室を機会に、児童と地域住民が登下校中の見守りの方とあいさつを交わす仲になったり、学校外の地域のスーパーで出会って声をかけあう仲になった。 【課題：地域で育つ達成に向けて残された課題】 放課後子ども教室の運営者の高齢化及び後任の不在。 各校の空き教室の状況による活動場所の有無。 希望児童の増加によるスタッフ数、開催場所等の対応の難しさ。	
	□ Value③こどもの自己決定 【成果：こどもの自己決定にどう寄与したか】 【課題：こどもの自己決定達成に向けて残された課題】	

R8 年度の取組方針（担当課入力）

R8 年度方向性	R8 年度方向性の理由	R8 年度の取組内容について具体的に記載してください。
拡充		未実施の小学校区においても実施できるよう、学校及び地域住民への説明会を行う。 委託先の運営方法についての助言を行う。

（参考）こども計画　重点事業 進行管理シート

資料３－４

事業の基本情報	
事業名	担当課
地域の居場所の周知	こども政策課

基本目標	施策	主な取組
2.こどもが健やかに育つまち	(5)こどもの居場所づくり	地域住民によるこどもの居場所づくりへの支援

R7 年度取組の成果と課題（担当課入力）		
事業内容	定性的評価（Valueへの寄与と課題）	副次的効果
既存のこどもの居場所を周知するために、市ホームページに「こどものいばしょページ」を作成・公開した。令和7年度は12か所掲載し、令和7年7月28日～令和8年3月31日の期間で、2,999件のアクセスを獲得した。 小学4年生以上のこどもが読める表記にしており、「こどもならだれでも、『行きたい』と思ったら自分で決めて行くことができる」、「こどもが一人でもむりょうまたは少ないお金でりようできる」、「おとなやわかものなど、こどものようすを見守る人がいる」の3要件を満たす地域の居場所を掲載している。	■ Value①大人の意識変容 【成果：大人の意識変容にどう寄与したか】 市ホームページに各居場所を掲載することで、市として活動を応援していることを広く周知するとともに、紹介文のなかに大人向けメッセージを入れることで、居場所実践者の想いを見える化した。市内公立小中学校に通う児童・生徒の保護者に配信したこども計画(保護者向けリーフレット)や子育て応援サポーター養成講座の配布資料に「こどものいばしょ」ページにつながる二次元コードを掲載した。保護者や地域の大人にこどもの居場所の意義を伝え、理解を深める機会となった。 【課題：大人の意識変容達成に向けて残された課題】	取材を通して市職員と運営者との関係性が構築された。また、「こどものいばしょ」ページにより、居場所が見える化され、運営者同士の連携のきっかけづくりを行った。
	■ Value②地域で育つ 【成果：地域で育つにどう寄与したか】 市内公立小中学校に通う児童・生徒に配布したこども計画(こども向けリーフレット)に、「こどものいばしょ」ページにつながる二次元コードを掲載した。リーフレットの配布後に、運営者から初見のこどもが遊びに来たという話を聞き、地域の居場所の周知により、こどもが居場所にアクセスする機会を創出した。 【課題：地域で育つ達成に向けて残された課題】	
	□ Value③こどもの自己決定 【成果：こどもの自己決定にどう寄与したか】 【課題：こどもの自己決定達成に向けて残された課題】	

R8 年度の取組方針（担当課入力）		
R8 年度方向性	R8 年度方向性の理由	R8 年度の取組内容について具体的に記載してください。
拡充	地域の居場所を周知することで、こどもが居場所を訪れて、地域の大人と接する機会を創出したり、居場所の継続的な運営支援につながるため、継続する。また、周知経路の拡大を図る。	同左。また、令和8年度新規事業のユースの居場所づくり事業で、中高生世代向けの場所を開設する。

（参考）こども計画　重点事業 進行管理シート

資料３－４

事業の基本情報	
事業名	担当課
公共施設の活用検討	こども政策課

基本目標	施策	主な取組
2.こどもが健やかに育つまち	(4)遊び・体験活動の充実	多様なこどもが一緒に遊ぶことができる施設の充実
2.こどもが健やかに育つまち	(4)遊び・体験活動の充実	こどもが自由に遊ぶことができる場の充実
2.こどもが健やかに育つまち	(5)こどもの居場所づくり	こどもの居場所の確保
2.こどもが健やかに育つまち	(6)こどもの心のケア	相談窓口による相談支援体制の整備
3.若者が望むライフデザインを実現できるまち	(8)社会参加の促進や多様な働き方の推進	若者をエンパワメントしてまちを変えるための仕組み構築

R7 年度取組の成果と課題（担当課入力）		
事業内容	定性的評価（Valueへの寄与と課題）	副次的効果
近鉄百貨店生駒店内で市が借り受けているスペースの利活用について、施設マネジメント課から情報提供を受け、こどもの居場所としての活用を検討したが、他の使用予定がある、条件が合わない等の理由で利用には至らなかった。 こども委員会の第一回「公園・自ぜんの中での外遊び」において、夏が暑く外で遊べないというこどもの意見を受けて、公共施設（室内の遊び場）の活用を検討した。	□ Value①大人の意識変容 【成果：大人の意識変容にどう寄与したか】 【課題：大人の意識変容達成に向けて残された課題】 □ Value②地域で育つ 【成果：地域で育つにどう寄与したか】 【課題：地域で育つ達成に向けて残された課題】 □ Value③こどもの自己決定 【成果：こどもの自己決定にどう寄与したか】 【課題：こどもの自己決定達成に向けて残された課題】	

R8 年度の取組方針（担当課入力）		
R8 年度方向性	R8 年度方向性の理由	R8 年度の取組内容について具体的に記載してください。
継続	引き続きこどもの声を聴きながら、こども同士が遊び、共に育ち、身近な大人に気持ちを吐露できる環境の整備を目的に、公共施設の活用を検討する。加えて、特に中学・高校生世代以上の若者が地域の大人と出会い、社会とつながりながら、価値観や活動の幅を広げていく拠点としての公共施設の活用についても検討する。	令和8年度の夏休み期間中に期間限定で室内の遊び場をオープンする運びになった。

（参考）こども計画　重点事業 進行管理シート

資料３－４

事業の基本情報	
事業名	担当課
民間学童保育施設の誘致	児童総務課

基本目標	施策	主な取組
2.こどもが健やかに育つまち	(5)こどもの居場所づくり	こどもの居場所の確保
4.安心して子育てができるまち	(11)多様な保育サービスの提供	放課後児童クラブ（学童保育）の充実

R7 年度取組の成果と課題（担当課入力）

事業内容	定性的評価（Valueへの寄与と課題）	副次的効果
特定非営利活動法人三楽から申し出があり、４月１日から運営を開始し、補助金交付などで運営を支援した。 名称：生駒中央放課後児童クラブ 開所日：令和７年４月１日 補助金額：5,858,317円（令和７年度決算ベース） 在籍児童数：10～12人 指導員数：5名 開所時間：平日　放課後～19:30 土曜、長期休暇　8:00～19:30	□ Value①大人の意識変容 【成果：大人の意識変容にどう寄与したか】 【課題：大人の意識変容達成に向けて残された課題】	民間学童保育所において、児童の自己決定を尊重するような取組が行われていることを把握できた。
	□ Value②地域で育つ 【成果：地域で育つにどう寄与したか】 【課題：地域で育つ達成に向けて残された課題】	
	■ Value③こどもの自己決定 【成果：こどもの自己決定にどう寄与したか】 特定非営利活動法人三楽では、夏休みや遠足において、縦割りグループをつくり、グループ内の話し合いで役割を決め、活動することで責任を持たすという取組を行っており、こどもの自己決定を尊重し、良いところを伸ばすという方針を掲げている。 【課題：こどもの自己決定達成に向けて残された課題】 特定非営利活動法人三楽における自己決定に関する取組について、より発信・周知を行う必要がある。	

R8 年度の取組方針（担当課入力）

R8 年度方向性	R8 年度方向性の理由	R8 年度の取組内容について具体的に記載してください。
継続	学童運営協議会が運営する学童が飽和状態のところもあるので、民間学童保育所への入所を促すため。	引き続き民間学童保育所と、新規開所や魅力ある取組とその発信などについて、意見交換する。 ８年度は、特定非営利活動法人三楽の生駒台放課後児童クラブにて、サマー学童が開始されるため、利用者の声を聞いて、民間学童の取組のブラッシュアップや新規開所につなげるとともに、次年度の民間学童の公募に向けて準備する。

（参考）こども計画　重点事業 進行管理シート

資料３－４

事業の基本情報	
事業名	担当課
いばしょ支援ステーションGIFT	地域共生社会推進課

基本目標	施策	主な取組
2.こどもが健やかに育つまち	(5)こどもの居場所づくり	こどもの居場所の確保

R7 年度取組の成果と課題（担当課入力）

事業内容	定性的評価（Valueへの寄与と課題）	副次的効果
●ひきこもり支援ステーションGIFTの運営 ひきこもり状態にある者の自立支援を促進するため、まずは自宅から出るきっかけとなるような居場所や、何らかの生き辛さを抱えている者に対する居場所の設置が必要となっている。ひきこもり状態から一歩を踏み出し、本居場所を利用する者が他利用者又はスタッフとのコミュニケーションを図り、相談支援や他の社会資源への参加支援につなげるための連携を図ることで、生きることに希望を持ち、社会とのつながりを持つことを目的としている。 ●主な事業内容と結果 （１）居場所づくり事業 ひきこもり状態にある者の居場所づくりを行い、利用者とのコミュニケーションや、利用者同士のコミュニケーションの仲介役を担う。また、様々なイベント等により多様な方が参加しやすい環境づくりに努め、利用者各々の能力を活かせるような居場所づくりに努める。 ・利用人数：延べ514人 （２）相談支援 GIFT利用者で相談支援を望まれた場合、必要に応じて相談支援を行える体制を整えておく。また、生駒市子ども・若者総合相談窓口ユースネットいこまや他の機関と連携し、適切な相談支援機関につなぐ。 ・専門職への相談：14件 ・専門職以外への相談：23件 （３）当事者会・家族会 ひきこもり状態にある者（当事者）やその家族が同じような境遇にある人と気持ちを共有し学びを深めることを目的として、当事者会、家族会をそれぞれ隔月で開催する。 ・当事者会：4回開催 ・家族会：5回開催	□ Value①大人の意識変容 【成果：大人の意識変容にどう寄与したか】 【課題：大人の意識変容達成に向けて残された課題】 □ Value②地域で育つ 【成果：地域で育つにどう寄与したか】 【課題：地域で育つ達成に向けて残された課題】 ■ Value③こどもの自己決定 【成果：こどもの自己決定にどう寄与したか】 「何もしなくてもよい」「一人でいたいときは一人でいられる」など、こどもがどう過ごしたいかを自ら選べる選択肢の1つとして居場所を提供した。 【課題：こどもの自己決定達成に向けて残された課題】 15歳や18歳など、支援機関の切り替わるタイミングで支援者や社会との繋がりが途絶える可能性が高まる年齢や、ニーズにあった公的支援制度がみつからない状態にある方など、制度の「はざま」となり支援が受けられない方を、支援者同士のつながりやインフォーマルな支援でつなぐ仕組みづくりが必要。ひきこもり期間の長期化を防ぐため支援機関同士が連携する必要がある。	

R8 年度の取組方針（担当課入力）

R8 年度方向性	R8 年度方向性の理由	R8 年度の取組内容について具体的に記載してください。
継続	相談支援との連携強化を図り、居場所の周知や、社会資源との連結を強化し、既存事業を継続する中で支援者間のネットワークを定着させる。	・相談支援事業、居場所づくり事業、連絡協議会・ネットワークづくり事業等について、関係機関や生駒市子ども・若者ネットワーク会議と連携しながら実施 ・ひきこもり支援に関する相談窓口を紹介しているポスターを全自治会に配布 ・ひきこもり支援に関する相談窓口及びひきこもり支援に関する講座について、民生委員・児童委員に周知

（参考）こども計画　重点事業 進行管理シート

資料３－４

事業の基本情報	
事業名	**担当課**
ライフデザインセミナーの開催	こども政策課

基本目標	施策	主な取組
3.若者が望むライフデザインを実現できるまち	(9)ライフデザインに対する支援の充実	ライフデザインの普及啓発
5.地域でこども･若者・子育て家庭を応援するまち	(16)ワーク･ライフ･バランス、男女共同参画の啓発	ジェンダーギャップの解消

R7 年度取組の成果と課題（担当課入力）		
事業内容	**定性的評価（Valueへの寄与と課題）**	**副次的効果**
奈良県との共催により、1月に中高生世代を対象としたセミナーを1回開催した。 参加者は中学生6名で高校生の参加はなかった。 当日は、講師よるミニレクチャー、進学・就職・結婚・子育て等のライフイベントをすごろくで疑似体験しながら考える「人生すごろく」、人生年表の作成を行った。	□ Value①大人の意識変容 【成果：大人の意識変容にどう寄与したか】 【課題：大人の意識変容達成に向けて残された課題】	
	□ Value②地域で育つ 【成果：地域で育つにどう寄与したか】 【課題：地域で育つ達成に向けて残された課題】	
	■ Value③こどもの自己決定 【成果：こどもの自己決定にどう寄与したか】 参加者アンケートでは、「ぼんやりとした将来のことが少し輪郭が出てきたように思えて嬉しかった。」「実際に年表を作って遠くのことに感じていた未来のことが身近に感じられた」「深い質問もあって将来についてしっかり考えることもできた」等の声があり、こどもがこれからの人生を選択していくための情報やヒントを提供することができた。 【課題：こどもの自己決定達成に向けて残された課題】 中高生世代を対象としたセミナーであったが、参加者は中学生6名のみととても少なく、自己決定を後押しできた対象は非常に限定的であった。	

R8 年度の取組方針（担当課入力）		
R8 年度方向性	**R8 年度方向性の理由**	**R8 年度の取組内容について具体的に記載してください。**
見直し	公募による開催は、参加者が限定され少数になってしまう傾向にあることから、市内高校の講座として学校のニーズもヒアリングしながら企画を行うため。	・奈良北高校の夏期特別講座メニューにライフデザインに関するテーマの講座を追加し、受講を希望した生徒を対象に開催する。 ・ライフデザインを前面に出した企画にすると、課題意識を持っている人にしか刺さらない可能性があることが分かったので、「進路」「ジェンダード・イノベーション」等、スーパーサイエンスハイスクールの生徒にとって身近なテーマや関心の高そうなテーマと絡めてライフデザインについて考える講座構成とする。

（参考）こども計画　重点事業 進行管理シート

資料３－４

事業の基本情報	
事業名	**担当課**
家族留学（こどもと接する機会創出事業）	こども政策課

基本目標	施策	主な取組
3.若者が望むライフデザインを実現できるまち	(9)ライフデザインに対する支援の充実	ライフデザインの普及啓発
4.安心して子育てができるまち	(10)妊娠前からの切れ目のない支援	性や妊娠に関する正しい知識を身に付ける機会・こどもに接する機会の創出
5.地域でこども･若者・子育て家庭を応援するまち	(14)地域の力の活用	地域でこども・子育てを支える体制の強化
5.地域でこども･若者・子育て家庭を応援するまち	(17)地域でこどもを大切にする文化の醸成	若い世代がこどもに接する機会の創出

R7 年度取組の成果と課題（担当課入力）		
事業内容	**定性的評価（Valueへの寄与と課題）**	**副次的効果**
若い世代が、市内で子育て中の家庭に半日訪問し、こどもと遊んだり受け入れ家庭との対話を通して、自分らしい人生を描くためのヒントを得る「家族留学」を新規事業として実施した。 10月から2月の5ヶ月間で募集したところ、参加申込は大学生2名、受け入れ家庭の登録は6家庭あった。 11月にマッチングされた1組目の留学が実施された。（2組目は3月に実施予定であったが、次年度に延期）	■ Value①大人の意識変容 【成果：大人の意識変容にどう寄与したか】 受け入れ家庭の中には、若い世代の学びになるのであれば、自分の家庭をフィールドとしてぜひ使ってもらいたいという動機で登録された方もいた。若者が望む人生を歩むために後押ししようとする大人の具体的な行動につなげることができた。 また、受入を行った子育て当事者は、留学生の悩みや将来への不安などを聴き、対話を行った。 【課題：大人の意識変容達成に向けて残された課題】 若者を応援したい気持ちで受入家庭に登録された家庭が6家庭あったが、実際に留学の実施に至ったのは1家庭のみだった。実際に受入を行い若い世代と対話を行うことで、新たな気づきや意識の変化が期待できるので、参加者数を増やすことが求められる。 ■ Value②地域で育つ 【成果：地域で育つにどう寄与したか】 留学終了後も、受け入れ家庭から参加者に「悩んだときは連絡してね」というメールが届くなど、これまで、地域で子育てを行う家庭とまったく接点がなかった若い世代に、受け入れ家庭とつながりを持つきっかけを提供することができた。 【課題：地域で育つ達成に向けて残された課題】 ■ Value③こどもの自己決定 【成果：こどもの自己決定にどう寄与したか】 参加者の満足度はとても高く、これからの生き方を考える上でのヒントを得ることができた、という感想も寄せられた。また、自分が育った家庭以外の家族のあり方を知ったことで「子育てが男女問わずできること」や「仕事と子育ての両立への不安が軽減された」等の意識変容が見られた。参加された1名に限定されるが、これからの人生を選択するにあたり、有意義な機会を提供できたと言える。 【課題：こどもの自己決定達成に向けて残された課題】 SNS、折込広告、大学経由での周知等あらゆる手段を尽くしたものの、参加者数が伸びなかったため、市内の若者の自己決定に寄与したとは言えない状況である。	・プレスリリースしたところ複数のメディアから取材の依頼があり、TVや新聞で市が目指すところを取り上げてもらうことができた。 ・受け入れ家庭募集にあたって、チラシの設置に協力してくださる市内のこどもクリニックを見つけることができた。 ・参加者募集広報に苦戦したことで、広く「若者」と捉えていた対象を、「就活前の大学生」「就職数年目の20代」など、ペルソナに落とし込んでアプローチを考えるきっかけとなった。

R8 年度の取組方針（担当課入力）		
R8 年度方向性	**R8 年度方向性の理由**	**R8 年度の取組内容について具体的に記載してください。**
継続	参加者数は少なかったものの、今後の生き方にとって大切なヒントを提供できており、参加者募集を工夫することによって、より多くの若者の自己決定を後押しできると考えるため。	・参加者を増やすため、募集期間を10ヶ月間に拡大 ・婚姻届への参加者募集チラシの挟み込みや、フォトブース横にチラシを設置する等、新婚カップルをターゲットとした周知を市民課と連携して実施中 ・委託内容として、当初は上限5件で契約しており、5件を超える申込があった場合に変更契約を行う形式に変更

（参考）こども計画　重点事業 進行管理シート

資料３－４

事業の基本情報	
事業名	担当課
奈良県と連携した性と生殖に関する健康と権利（SRHR)等を知る機会の充実	ダイバーシティ推進プラザ

基本目標	施策	主な取組
４.安心して子育てができるまち	(10)妊娠前からの切れ目のない支援	性や妊娠に関する正しい知識を身に付ける機会・こどもに接する機会の創出

R7 年度取組の成果と課題（担当課入力）

事業内容	定性的評価（Valueへの寄与と課題）	副次的効果
●パープルリボンキャンペーン（女性に対する暴力をなくす運動） （事業の概要） 女性の人権の尊重にかかる意識啓発や教育の充実を図るため、全国的に展開される「女性に対する暴力をなくす運動」期間（パープルリボンキャンペーン）を、本市でも実施。 （事業の具体） 〇公共施設と商業施設で「自分の体だから知りたいSRHR]のパネルを展示 〇相談機関のポスター掲示、パンフレットやカードの配布 〇ボランティア団体等の協力を得て作成した「パープルリボン」の配布	□ Value①大人の意識変容 【成果：大人の意識変容にどう寄与したか】 【課題：大人の意識変容達成に向けて残された課題】	
	□ Value②地域で育つ 【成果：地域で育つにどう寄与したか】 【課題：地域で育つ達成に向けて残された課題】	
	■ Value③こどもの自己決定 【成果：こどもの自己決定にどう寄与したか】 「自分の体だから知りたいSRHR]のパネル展示を通して、自分の体や性、人生について自由に選択できる権利があることを伝えることができた。また、相談機関を周知することを通して、被害等の問題が発生したときに、我慢して受け入れるのではなく、回避したり解決するための支援窓口を伝えることができた。 【課題：こどもの自己決定達成に向けて残された課題】 「生理」「妊娠」「性的同意」等について学ぶ必要があるのは女性だという意識が根強く残っている。また、SRHRについては概念として周知・啓発する必要があるため、課題として意識化されていない層に対してのアプローチを模索する必要がある。	

R8 年度の取組方針（担当課入力）

R8 年度方向性	R8 年度方向性の理由	R8 年度の取組内容について具体的に記載してください。
継続	被害の救済とSRHRの普及・啓発のため、引き続き取組が求められるため。	公共施設と商業施設で「自分の体だから知りたいSRHR」のパネル展示をＲ７年度に引き続き実施するとともに、公共施設では、大学生による「SRHR」に対する考察や、奈良育英高等学校人権研究部による「SRHR」に関する図書の紹介文を展示。 パープルリボンキャンペーン（１１/１２～２５）では、公共施設でのパネル等の展示を行うとともに、講演会や映画会、アンガーマネジメントの講座などを実施する。来場者や参加者に展示を見ていただくことで、幅広い年齢層に伝えられる機会とする。 今後、パートナーや親子など立場を入れ替えたロールプレイを通じてSRHRを学ぶ機会を設けるなど、相手の立場を理解して考える力を養う効果的な取り組みを検討する。

（参考）こども計画　重点事業 進行管理シート

資料３－４

事業の基本情報	
事業名	担当課
プレコンセプションケアの推進	健康課

基本目標	施策	主な取組
４.安心して子育てができるまち	(10)妊娠前からの切れ目のない支援	性や妊娠に関する正しい知識を身に付ける機会・こどもに接する機会の創出

R7 年度取組の成果と課題（担当課入力）		
事業内容	定性的評価（Valueへの寄与と課題）	副次的効果
・市ホームページにてプレコンセプションケアに関するページを新規開設（令和8年1月～公開、R7年度アクセス数135回）	□　Value①大人の意識変容 【成果：大人の意識変容にどう寄与したか】 【課題：大人の意識変容達成に向けて残された課題】	
	□　Value②地域で育つ 【成果：地域で育つにどう寄与したか】 【課題：地域で育つ達成に向けて残された課題】	
	■　Value③こどもの自己決定 【成果：こどもの自己決定にどう寄与したか】 ホームページを閲覧することで、妊娠前から若い世代へ性や妊娠に関する正しい知識を身につけ、自身のライフプランを考える機会となった。 【課題：こどもの自己決定達成に向けて残された課題】 ターゲット層である１０代のこどもが市ホームページを閲覧する機会が少ない。	

R8 年度の取組方針（担当課入力）		
R8 年度方向性	R8 年度方向性の理由	R8 年度の取組内容について具体的に記載してください。
拡充	妊娠前から性や妊娠に関する正しい知識を身につけることができるよう、１０代のこどもに焦点を当てた取り組みを実施予定。	・R8年度　市職員による公立学校等への出前講座メニューに「小中高生向けのプレコンセプションケア」を追加。 ・奈良北高校生徒に女性の健康管理アプリ「ルナルナ」のチラシを配布。 ・学校向け連絡アプリ「すぐーる」にて保護者向けに「ルナルナ」のチラシを配信。

（参考）こども計画　重点事業 進行管理シート

資料３－４

事業の基本情報	
事業名	**担当課**
子育て応援サポーターの養成	こども政策課

基本目標	施策	主な取組
4.安心して子育てができるまち	(12)子育て家庭への支援と相談・情報提供等の充実	親の養育力の向上支援
5.地域でこども･若者・子育て家庭を応援するまち	(14)地域の力の活用	地域でこども・子育てを支える体制の強化
5.地域でこども･若者・子育て家庭を応援するまち	(17)地域でこどもを大切にする文化の醸成	こどもを大切にする地域づくり

R7 年度取組の成果と課題（担当課入力）		
事業内容	**定性的評価（Valueへの寄与と課題）**	**副次的効果**
民生・児童委員地区会議と、自治会市政研修会において「こどもの今」というテーマで出前講座を計7回開催し、182名が受講した。 講座の構成は次のとおり。 ①子育て環境の変化 　子育てをする環境が数十年の間に変わってきていることを、社会面、生活面、価値観の面から具体的なデータ（例：共働き家庭の増加、公園等遊び場の制限強化、スマートフォンの浸透、こども基本法の制定）で説明。 ②データで見るこどものいま 　不登校のこどもが増加していること、悩みを相談できる人がいないこどもが一定存在すること、諸外国と比べ、こどもの自己肯定感が低いこと等データから見えるこどもの状況を説明。 ③地域とこどもとの関わり（こどもの声紹介） 　市内の小学4年生～中学3年生を対象にしたアンケート結果から、「地域の大人との関わりで嬉しかったこと」や「地域の大人とやってみたいこと」の自由意見等を共有。 ④地域の取組例 　日常生活のなかで無理なく取り入れる方法として「あいさつ」「見守り」等、すでに行われている活動を後ろから支える方法として「こどもの居場所への寄付」「活動場所の提供」等、すでに行われている活動に参加する方法として「登下校時の立哨活動」「ファミリー・サポート」等、自ら立ち上げたり主催する方法として「地域食堂」「こどもサロン」等、具体的な取組例を紹介。 最後に、質疑応答・情報交換の時間をとった。	■ Value①大人の意識変容 【成果：大人の意識変容にどう寄与したか】 受講者から「こどもがいない立場だが、これから地域のこどもに挨拶するようにしたい」や「大人もこどもも一緒に祭りをつくっていけるのではないかと考える」などの声が寄せられ、一部の受講者には、具体的な行動変容が期待できる結果が得られた。 【課題：大人の意識変容達成に向けて残された課題】 一方で、「後継不足でこども会が消滅した」「自治会活動に親世代が不在のためこどものニーズがわからない」「こどもに挨拶をしたら保護者に不審者扱いされた」等保護者世代に対して色々な想いを持たれていることが判明した。地域の大人の意識変容には、子育てを終えられた世代の地域の方と保護者との対話の場が鍵になる可能性が浮かび上がった。 □ Value②地域で育つ 【成果：地域で育つにどう寄与したか】 小中学生が回答した地域の大人との関わりに関するアンケート結果の共有で、地区内のこどもの生の声（自由記述）を具体的に共有したことで、「ふだん活動していてもこどもがどう思っているのか知る機会がない。今回初めて知ることができ励みになった」という声が複数あった。既に活動されている方に対して、こどもとの関わり方を考える機会を提供できた。 【課題：地域で育つ達成に向けて残された課題】 ・受講者のうちほとんどは民生・児童委員であり、既にこどもに関わる活動をされている方も多くアプローチ先としては限定的であった ・課として、受講者と個別に接点をもち、地域活動の見学や意見交換を行うことはできたが、地域単位での活動を生み出したり、対話の場を持つことはできなかった □ Value③こどもの自己決定 【成果：こどもの自己決定にどう寄与したか】 【課題：こどもの自己決定達成に向けて残された課題】	受講者から、講座で紹介した「こども110番の家」に登録したいがどうすればいいかわからない」との問い合わせがあった。防犯担当につなぎ、実際の登録につながった。

R8 年度の取組方針（担当課入力）		
R8 年度方向性	**R8 年度方向性の理由**	**R8 年度の取組内容について具体的に記載してください。**
継続	子育て当事者ではない地域の大人の意識変容を促すためには、こどもたちが置かれている現状を知ってもらい、地域とこどもとの関わりについて改めて考えてもらう機会として有効であるため。	【対象者】 自治会を対象に講座を展開し、「公園の使い方ルール」等をテーマに、地域で大人とこどもが対話する具体的な機会の創出を目指したい。 【講座の内容】 自治会活動にこども・保護者の視点を取り入れることで、自治会が抱える課題解決につながる方法をともに考えられるような構成に変更する。